

IMF サーベイ

IMF・世界銀行春季会合

世界経済：グレートリセッションという危機を克服しつつも障害が待ち構えている

2014年4月2日



2014年春季会合でのラガルド専務理事：回復は根付きつつも余りにも遅く、行く先にはいくつかの障害が待ち構えている（写真：IMF）

- 概ね世界経済は安定化したが、新たな障害が浮上している
- 世界経済を次のレベルにシフトさせるには、大胆な政策措置が必要
- より野心的な政策なしでは、世界は中期的に低成長の罠に陥る可能性も

国際通貨基金（IMF）のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、世界経済はグレートリセッション（大規模景気後退局面）という危機を乗り越えつつあるが、全体として成長は引き続き遅くかつ弱いと述べた。

2014年 IMF・世界銀行の春季会合に先立ち、ワシントン DC のジョンズホプキンス大学ポール・H・ニツェ高等国際関係大学院（SAIS）で演説を行ったラガルド氏は「穏やかで脆弱な回復が進んでおり、よりピッチが速く持続可能な成長にギアをシフトする必要がある」と述べた。

同氏は、世界経済のトレンドとしていくつかの点を挙げ、米国、ユーロ圏、日本をはじめとした先進国・地域の経済活動は、スピードは異なるものの好転していると述べた。

新興市場国・地域の成長率は、鈍化しているものの、世界で最も高く特にアジア新興国は引き続き世界経済の「輝ける場所」となるだろうと同氏は述べた。同様に、サブサハラアフリカ（サハラ以南アフリカ）も力強いペースで成長している。移行期にあるアラブ諸国が最も厳しい状況にあり、社会・政治的に難しい状況により成長が引き続き抑制されているとの見方を示した。

短期的な問題

ラガルド氏は、より力強く持続可能な成長への道程には短期的な障害が存在すると注意を促した。古い障害としては、金融部門の改革課題の完遂、多くの国々における多額の債務、そして高失業率の慢性化などがある。

新たな障害としては、

- 「**超低インフレ**」のリスクの浮上—低インフレの時期が長引く可能性がありこれは、需要と産出高を抑制し、そして成長と雇用を抑制する。
- 米国の量的緩和の解消に関連し**市場のボラティリティが高まる**リスクがある。また総じて海外の金融環境はそれほど好ましくないこともある。
- **地政学的緊張の高まり**が、世界の経済見通しに影を落としかねない。ウクライナの状況は、適切に対処しなければ、より広く波及的な影響を及ぼすことになるかもしれない。

ラガルド氏は、緩慢な成長が続くことによるコストは高いと指摘した。すなわち、所得の伸びはわずかで失業の改善も段階的となろう。「政策面で十分な志がなければ、世界は中期的に低成長の罠に陥るかもしれない」

成長に向けた巡航速度

ラガルド氏は、目標は中期的な成長のための巡航速度に入ることだと断言した。多くの国で、これを支えるマクロ経済政策の余地が限られてきていることから、政策のテコとしての構造改革の役割が増すことになるだろう。重要な分野は以下のとおり。

- 優先付けを十分に行った**投資**をさらに多く行うことで、潜在成長率の上昇と雇用を創出
- 潜在成長力の押し上げで有効な**包摂的な労働市場改革**
- 既得権益の破壊、競争力の強化、雇用と成長の大きな可能性の解放に有益な、**製品市場及びサービスの改革**

国際協調を強化する

「世界がグレートリセッションからの回復途上にあり、さらに地政学的な緊張が高まるなか、こういった課題に対処するために不可欠な国際協調を強化するためにはどうしたら良いだろうか」

ラガルド氏は、2月にオーストラリアで会合を開いた主要20カ国・地域（G20）は、**各国**が適切な政策措置を選択することで、そして、**各国**が適切に協力することで、

今後 5 年間で世界の GDP がさらに 2%以上拡大する可能性があるという点を確認したと述べた。

「これが実現するならば、世界経済は今日と全く異なるより望ましい軌道に乗ることになる」

関連リンク：

[スピーチを読む](#)

[春季会合ウェブサイト](#)

[IMF 世界見通しノート](#)

[ブログ：「デフレ」対「超低インフレ」](#)